

の交通渋滞、買い物・観光の目的で広域に移動する人々への対応等、公共交通が抱える課題が判明してきた。そこで、平成23年1月に住民生活に必要な輸送の確保及び公共交通の利便性を図り、地域実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議するために、橿原市地域公共交通会議を設置した。

問 公共交通会議は、市長を先頭にたびたび開催し、2月にも万葉ホールで開催された。この会議の中で、公共交通空白地帯にかかわる対応についての項目が付け加えられたが、そこではどういった議論がされているのか。

答 平成15年4月に路線バスの観音寺線が廃止された以降、公共交通空白地帯が出現し、南西部地域の住民の方、特に高齢者には不便をかけており、川西町の県営団地から住民の生活に必要な交通手段の確保を求める1千名の署名要望が出ている。中和幹線、京奈和自動車道、進行中の側道部分の整備、そして、路線バスの縮小、廃止も考慮しつつ、これからの交通体系の變化を的確に把握していかなく

ればならない。こういった中、イオンモール付近を核とし、中和地域としての公共交通体系の実現のため、関係市町村の公共交通政策課担当者との連携を密にし、公共交通空白地帯の解消に取り組んでいかなければならないという考えのもと議論があった。

問 川西の県住橿原団地は約650戸であり、そこで1千筆の署名が集まっているという事は、ほぼ全戸から署名が集まっていることになる。

過去に地元自治会の方が公共交通復活に努力されているが、残念ながら実現に至っていない。地元の方の強い要望がここに現れていることは間違いない。空白地帯の克服に向け平成24年3月に橿原市生活公共ネットワーク計画が立てられ、特に南西部の空白解消が必要だという結論に至り、その後、新たな路線として八木イオンモール、川西県住、御所のルートが計画され、平成25年に向けて動き出す予定だった。まだ実現していないが、その理由は。

答 平成24年3月、橿原市地域公共交通会議において橿原市生活交通ネットワーク計画

が策定されたが、その直後に、大和八木駅と近鉄御所線を結ぶ路線バスの県補助が打ち切られるとともに、利用者等の減少で路線の存続が厳しいことから、奈良交通から合理化の方針が示された。平成24年10月から減便され、将来的には廃止となる恐れも出てきた。この八木御所線の動向は、以前示していた新たな路線バスの運行計画に大きな影響を及ぼし、新たな公共交通空白地帯を生み出しかねない事態となっている。こういったことから新たな路線バスの運行計画を一時中断し、既存路線である八木御所線の存続に向け、関係する御所市、高取町とともに県補助廃止の撤回を求め要望書を提出した。

問 八木御所線が廃止になる可能性があるとのことだが、県では知事が主導のもと公共交通改善協議会を開催している。9月30日が一つの区切りで、そこで、廃止あるいは存続が決まるようだが、見通しは。

答 奈良交通から慢性的な赤字が続く25路線45系統について路線の存在に関する異議申し立てがあった。そして、新

体制で、県、市町村、交通事業者が連携し生活交通の維持確保に向け取り組みを進めることとなった。この奈良県地域交通改善協議会は、知事を会長に各市町村長、交通事業者、関係団体、近畿運輸局の自動車交通部長、企画観光部長、奈良運輸局支局長の委員で構成され、昨年2月20日に第1回会議が開催された。対象路線25路線45系統に関する協議も大詰めを迎え、今年2月には第1回の路線別検討会議を開催し、路線ごとに維持、代替、廃止についての協議が始まったところである。本市が関係する路線は、八木御所線、高田イオンモール線、八木五條線、八木新宮線、八木下市線、八木大滝線の合計6路線である。この協議会は6月にも開催予定で、それまでに各路線の方向性を決定しなければならぬ。現在、6路線の存続に向けて路線別協議に入っている。また、国は、

持続可能な地域交通の体制整備のため、新たな補助制度を検討しており、2015年度予算に盛り込む方向である。イオンモール増床に伴う整備計画、京奈和自動車道の側道

部分の交通体系の変化、他市町村のコミュニティバスとの連携、新たにオープンする歴史に憩う橿原市博物館や平成28年に完成予定の集客施設への交通アクセスなど、本市を取り巻く状況は年々変わってきており、これらの状況を鑑み、道路整備のハード面、交通諸対策とのソフト面を連動させ、関係機関などの連携を図りながら、実現可能な持続性のある新規路線について橿原市地域公共交通会議において慎重に進めたい。

問 イオンモールを中心としたハブ化の計画の展望は。また、現状は。

答 ハブ化を一つのきっかけにして、公共交通機関のあり方を根本的に見直し、持続できる路線をつくらなければならぬ。ハブ化の構想は、まだ漠然としたものである。

問 高齢者の孤独死が毎年増えている。バス停があれば医者にも買い物にも行くことができる。しっかりとした公共交通実現をしてみたい。こういった地域の公共交通を、実現していくという点では、市長とも考えは同じ方向性だと思っており、連携し実現し